



左から山本店長、板橋社長、奥瀬取締役

地域共生で フェスティバルに出展

弁天町の夏の風物詩として定着

イタバシ

との交流を深めた。

弁天町SS（山本巨

人店長）周辺は新宿区

内でも地元意識が強

く、下町風情が残って

おり、イタバシの模擬

店出店は夏の風物詩の

一つとして定着してい

る。「弁天町チャリテ

ィーフェスティバル」

は今年で三十回目、十

九二十日の二日間、

弁天町青年 梅雨明け直前の蒸し
の会主催・ 暑いなかで、汗を流し
弁天町会後 ながら炭火で焼き鳥を
援で開か 焼き上げて販売する模
れ、天候不 擬店には「毎年恒例の
順ながらも例年以上の イタバシの焼き鳥が楽
盛り上がりを見せた。 しみ」と、買い求める
地元密着、地域との 地元、周辺住民が長蛇
共生を目指し、チャリ の列をつくり、山ほと
ティーフェスティバル 用意した焼き鳥は二日
会場は焼き鳥の模擬 間で完売した。
には、お揃いのイベン ト用Tシャツを善用し
た板橋社長をはじめ奥 地元密着を追求する
瀬直志取締役、山本店 板橋社長をはじめとし
長や本社社員スタッフ た社員スタッフの「チ
が参加した。 ャリティーフェスティ
バルを盛り上げた。

【新宿区＝東京】イ
タバシ（昭シ系＝本社
東京都新宿区・板橋考
史社長）は今年も恒例
となった地元弁天町の
「ファミリーフェステ
ィバル」に焼き鳥など
模擬店を出店し、地元